

令和2年度 大賀郷中学校

「生徒の学力向上を図るための調査」に関する考察と改善

令和2年度 大賀郷中学校 2年生 23名 (男8 女15)

国語

○正解率 全体・(H31 61.2% ⇒R2 79.7%)

	思考・判断・表現 (話す・聞く)	技能 (書く)	知識・理解 (言語)	読む
平成31年度	69.2%	59.0%	60.0%	60.6%
令和2年度	84.1%	84.1%	75.5%	80.7%

○分析

全体では、昨年と比べ正解率が18.5%上昇した。観点別では、「書く」領域が25.1%も上昇した。「技能」の領域は東京都の平均以上になっていると思われる。「読む」領域は、80%の正解率になったが、過去の数値から考えると東京都の平均には達したかと思われる。

○授業改善のポイント

■課題 <読む能力>

☆文章と図表等との関係を捉え、内容を的確に読み取らせる指導を充実させる。図表等について、どの部分に着目すると、どのようなことが読み取れるかを考えさせた上で、それが文章のどの部分で説明されているのかを確認させる指導を行う。

社会

○正解率 全体・(H31 49.3% ⇒R2 57.7%)

	思考・判断・表現	技能	知識・理解
平成31年度	48.3%	63.2%	33.0%
令和2年度	51.1%	62.6%	57.8%

○分析

全体では、昨年と比べ正解率が8.4%上昇した。観点別では、「知識・理解」領域が24.8%も上昇し、過去の数値から東京都の平均を超えていると思われる。身に付けた知識や技能を用いて、今後さらに思考・判断・表現する能力の向上を図りたい。

○授業改善のポイント

■課題 <社会的な思考・判断・表現>

☆課題を追究したり解決したりする活動の指導を充実させる。例えば、世界の諸地域の学習において、地球的課題の影響や要因を各州における地域的な特色と関連付けて、地球的課題を地域等の枠組みの中で考察できるようにする。

数 学

○正解率 全体・(H31 42.1% ⇒R2 60.5%)

	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
平成31年度	28.2%	48.3%	44.9%
令和 2年度	50.3%	74.5%	56.0%

○分析

全体では、昨年と比べ正解率が18.3%上昇した。観点別では、「思考・判断・表現」領域が22.1%上昇した。「技能」の領域はさらに26.2%も上昇した。「技能」については過去の数値をみても東京都より高いと思われる。「知識・理解」の領域は、昨年の東京都の平均が63%であったことから、上昇したものの「知識・理解」の向上のための授業改善が必要である。

○授業改善のポイント

■課題 <知識・理解>

☆既習の知識と関連付けるとともに。様々な事象の考察を通して意味を理解できるような指導の充実を図る。新しく学習する概念や原理・法則などは既習の知識と関連付け、より深く理解できるように指導する。

理 科

○正解率 全体・(H31 46.8% ⇒R2 49.8%)

	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
平成31年度	35.2%	53.8%	50.0%
令和 2年度	53.8%	47.8%	47.1%

○分析

全体では、昨年と比べ正解率が3.0%上昇にとどまった。観点別では、「思考・判断・表現」領域が18.6%上昇した。しかし、「技能」の領域は昨年度より6.0%下降した。過去の数値から理科の東京都の平均は50%前後と思われ、本校はそれを下回ったと考えるべきである。年間の授業において実験・観察の時間の確保した年間指導計画の作成や小中との連携を含めたカリキュラム・マネジメントが必要である。

○授業改善のポイント

■課題 <観察・実験の技能>

☆表やグラフを活用した指導を充実させる。誤差の扱いやグラフ化など測定値の処理の仕方の基礎を習得させなければならない。また、物質の性質を見い出して理解させる指導において、観察・実験の結果を分析して解釈することや、実験器具の操作、実験結果を記録する技能を見つけさせるための経験を数多くさせる必要がある。

英 語

○正解率 全体・(H31 51.9% ⇒R2 66.8%)

	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
平成31年度	42.3%	57.1%	51.3%
令和 2年度	68.7%	71.6%	55.1%

○分析

全体では、昨年と比べ正解率が15.1%上昇した。。観点別では、「思考・判断・表現」領域が昨年度より26.4%も上昇した。また、「技能」の領域は14.5%上昇した。「知識・理解」の領域については、4.2%の上昇であった。「思考・判断・表現」「技能」の領域については過去の東京都の正解率の数値を考えると、今年度は東京都の平均を大きく上回る結果になったと推察する。しかし、「知識・理解」の領域は、東京都の平均は60%前後と予想され、平均には届かなかったのではないかと考える。

○授業改善のポイント

■課題 <言語や文化についての知識・理解>

☆コミュニケーションの目的、場面、状況等に応じて、既習の語彙や表現、文法事項等を繰り返し活用させるように単元・授業を計画し、活用を通じて知識を定着させていかなければならない。
小中との連携を強め、カリキュラム・マネジメントを行うことで成果が出てくると考える。